

アメリカ伝道庁創立 90 周年を終えて

天理教ニューヨークセンター所長
福井 陽一 Yoichi Fukui

パリオリンピック

パリで開催中のオリンピックに合わせて、ニューヨーク市内ロックフェラーセンター前のスペースが、オリンピック広場となり、賑わいをみせている。この広場は冬季にはアイスリンクとなる「ザ・リング」と呼ばれ親しまれているエリアで、12 月には大きなクリスマスツリーが飾られるところでもある。オリンピックの放送は、日本では複数の放送局が放映しているが、アメリカでは、2000 年代から NBC 局がオリンピックの放送権を持っており、その系列の独占放送になっている。視聴者はそのチャンネルが見られるケーブルテレビのプランに加入しなければならない。そのため、NBC はオリンピック中継視聴促進のためのプロモーションを全米各地で行っている。ニューヨークでは、ロックフェラーセンターに NBC 本社があるので、このスペースをオリンピック村に変身させて、毎日プロモーションのイベントを実施している。期間中には、フランス料理を楽しめるブースや、ミニエッフェル塔の前での記念撮影、オリンピック中継が楽しめるほか、活躍したアメリカ選手に会える日もあるそうだ。

アメリカ伝道庁創立 90 周年記念祭

6 月 30 日、中山大亮様、中山はるえ様を迎え、アメリカ伝道庁創立 90 周年記念祭が行われた。アメリカ・カナダの各地から、そして日本からの教友も含めて約 700 名が参集した。ニューヨークセンター管内からは目標人数を上回る約 100 名が参加した。

また、前日の 29 日には、アメリカ婦人会・アメリカ青年会創立 70 周年記念合同総会が開かれた。アメリカ婦人会では、創立 50 周年からの 20 年間の活動を記録した、『アメリカ婦人会 70 周年記念写真集』が発行された。

合同総会の後には 90 周年記念行事として「天理教コミュニティの課題と可能性」とのタイトルのもとパネルディスカッションが行われた。アメリカにおける天理教内の親子関係を含む多世代関係に於ける現状、多様な民族と接しながらの経験、LGBTQIA+ コミュニティなどに関する話し合いが熱心に持たれた。

前夜祭でのファミリーフェスティバルでは、「他民族コミュニティを祝う」とのテーマで、地域コミュニティの協力を得て、メキシコ、韓国、フィリピン、日本などのフードブースが設営されるとともに、メキシコのマリアッチ音楽、中国獅子舞、韓国古典と現代音楽、新旧の人気音楽などの生演奏を楽しんだ。伝道庁では、記念祭に向けて「家族、友人、コミュニティの人たちと信仰の喜びを分かち合おう！」とのスローガンを掲げて、それぞれのコミュニティに根差した活動に努めてきたが、この日は、特に地域コミュニティの方々とともに記念祭を祝う楽しいひと時を過ごした。

当日の祭典では、真柱様のメッセージを大亮様が代読された。メッセージのなかで、伝道庁の持つ意味合い、教祖年祭に向かう三年千日の道の通り方について話され、「時には、思わぬふしに遭遇することがあるかもしれませんが、そうした中を、ひながたを思って、親に凭^{もた}れて勇んで通れば、教祖は、



90 周年記念祭余興を終えて NY 地区

それを見て、ご安心下さるでありましょうし、又、その皆さんの勇んで通る姿が、新しくこの道にお引き寄せ 頂く人を御守護頂けることに繋がると思うのであります。」と話された。最後に「アメリカ伝道庁は、教祖の教えを形に現して、陽気ぐらしの教えを伝え広める一つの拠点となる所であります。創立 90 年を迎えたこの節目から、アメリカ伝道の上に更に新しい芽が吹き伸びゆく御守護を頂くことができるよう、活発に活動をくりひろげて今日の日を意義づけて頂きたいと思っています。」と話された。

ニューヨークセンターは、伝道庁の出張場所であるので、伝道庁の活動の精神をもって、今後ともしっかりとセンターの活動の上に努める決意を新たにしました。

祭典終了後、敷地内の特設ステージでレセプションが行われ、青年会や婦人会をはじめ、各地区の教友による出し物や演奏が披露された。特に印象に残ったのは、若い人たちが結成した天理ユース雅楽会の演奏だった。学生会層が中心になり舞楽「抜頭」を披露した。これまでに雅楽の経験のない学生達が集まって、伝道庁で何回も雅楽おとまり会を行い、練習を重ね、この日を迎えた。主なメンバーはロサンゼルスやサンフランシスコ在住の学生達だ。この雅楽おとまり会が始まったきっかけは、子供の頃から伝道庁に泊まることで、伝道庁に少しでも馴染みができるようにとの願いが込められているそうだ。結成から記念祭までに実施された雅楽おとまり会は 17 回に達した。雅楽の宿舎を通して、メンバー同士の絆も深まり、伝道庁への馴染みもできたことと思う。

ニューヨーク管内からの参加者は、約半数が 40 歳以下の若い人達だった。記念祭での余興は、ニューヨーク地区の青年会・女子青年が中心になって企画し準備を進めた。そのため、とても元気のいい活発な出し物となった。

今回の記念祭は、若い人達の活躍がさまざまな場面で見られ、喜び、勇み心、躍動が感じられる記念祭だったように思う。10 年後に迎える伝道庁 100 周年には、彼らがさらに活躍する記念祭になるであろう。先人の心を受け継いで、これからの新しい道を切り開いていく「あらきとうりょう」の頼もしさを感じる記念祭であった。